

# 久我山で暮らすベトナム人家族



後列 左はハン・ツウハウさん、右はウ・トゥ・ハさん  
前列 左はグエン・ニャット・マイちゃん、  
右は妹のグエン・ニャット・ザンちゃん

杉並区に暮らすベトナム人は753人(2015年7月末)、国別では第5位です。8月15日、高井戸地域区民センターで久我山にお住いのベトナム人2家族(写真参照)から日本での生活についてお話を伺いました。2012年に来日したハさんとハンさんは、お二人ともNHK国際放送局多言語メディア部のラジオアナウンサーです。インタビューの通訳を引き受けてくれたのは、なんと、ハンさんのお嬢さんの中学1年生のマイちゃんでした。

このご家族と引き合わせてくださったのは日本語教室LTC友の会です。ハさんは5月に開催されたウェルカム・パーティにも参加していました。その情報を得たのもLTC友の会です。日本語教室は外国の方にとって、日本語の勉強だけでなく、地域の人たちに出会い、地域の情報を入手する大切な場所になっています。

ハさんには2歳半の息子さんがいます。外国である日本で仕事と育児をどうやって両立させているのでしょうか。実は親御さんが育児サポートに来日していました。子どもは家族全員で助け合って育てるのがベトナム流。日本では出産後に仕事か育児かで悩む女性たちが多いので羨ましいですね。

マイちゃんは来日した時は小学5年生。日本に来る前にひらがなとカタカナは覚えましたが授業はちんぷんかんぷん。やんちゃな男の子たちにも悩まされましたが、すぐに友だちもできて充実した学校生活を送っています。クラスに外国人が一人だったので先生がいろいろと気をつけてくださったことも幸運でした。3年たって今では大人の会話を通訳できるほど日本語が上達しています。「日本に戻ってくること」がマイちゃんの夢だそうです。

ハンさんとハさんが少し心配していることがあります。来日するベトナムの若者たちが急に増え始めたことです。お二人は職場でも生活のサポートを受けることができますが、若者たちは自分で日本の生活のルールを学ばなければなりません。若者たちが日本のことを知らないために問題が起きないように、ベトナム語の生活ガイドブックや日本人と知り合えるイベントなどを工夫してもらいたいと話していました。お二人の任期は来年3月まで。残り半年の日本での生活がより充実したものになるように、そして大人になったマイちゃんと再会できる日がくることを願っています。(広報部 T)

# すぎなみ交流ニュース

第38号  
2015年10月

Suginami Cultural Exchange News  
수기나미 교류 소식  
杉並的交流消息



会員になりませんか?  
~詳細は裏表紙~



発行:杉並区交流協会 [Suginami Association for Cultural Exchange (SACE)]  
〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル5階 [Minami-Asagaya Bldg. 5F 1-14-2 Asagaya-Minami, Suginami-ku, Tokyo 166-0004 Japan]  
TEL.03-5378-8833 FAX.03-5378-8844 E-mail:info@suginami-kouryu.org  
<http://www.suginami-kouryu.org/>  
◆年4回発行◆協会情報誌は区内施設窓口、区内の駅広報スタンドなどに置いてあります。

この印刷物は古紙配合率40%の再生紙を使用しています。

## 2015 楽しい イベント情報!



### ●すぎなみフェスタ2015 人と人、地域と地域をつなぎ、杉並を元気に

展示・物販・交流のテントのほか、遊びやスポーツのコーナー、お子様に人気のアトラクション、区内の団体からの発表、その他楽しい催し物が盛り沢山ですよ! 杉並区交流協会も出店します!

【日時】11月7日(土) 10:00~15:30、11月8日(日) 10:00~15:00  
【場所】メイン会場/桃井原っぱ公園(桃井 3-8-1)  
連携イベント会場/杉並会館(上荻 3-29-5)、西荻地域区民センター・勤労福祉会館(桃井 4-3-2)

【すぎなみフェスタ内容(予定)】  
◆特設ステージプログラム キャラクターショー(ニンニンジャーなど)、著名人による東京オリンピック・パラリンピックPR、東京高円寺阿波踊り、台湾戯曲院公演など。

- ◆交流自治体物産店
- ◆グルメコーナー、各種グッズ販売、パン・スイーツフェア、農産物即売会
- ◆ふれあい・安心・安全コーナー 昔遊び、スポーツ体験、起震車体験、白バイ展示、清掃車「ごみばっくん」など。
- ◆レクリエーションイベント エアートランポリンなど。
- ◆杉並区交流協会出店内容 インターナショナル・カフェ/ホットワイン、ホットコーヒー、ジャーマンセット(ソーセージとポテト)などドイツをテーマにした飲食物の販売。



【問合せ】すぎなみフェスタ実行委員会事務局(杉並区役所文化・交流課すぎなみフェスタ担当) Tel 03-3312-2111(代表)  
▶HPでも詳しくご案内しています。 [すぎなみフェスタ HP](http://www.sugi-chiiki.com/sugifes/)

### ●フィンランドフェア 杉並区交流協会主催「海外文化セミナー」

今年度はフィンランドをテーマにフィンランドの文化や生活をより身近に感じていただけるイベントを開催します。今回はフィンランドに工場を持つミサワホーム(杉並区高井戸)のご協力をいただいています。

【日時】12月5日(土) 13:00~17:00  
【場所】高井戸地域区民センター(高井戸東 3-7-5)  
【フィンランドフェア内容】※内容を一部変更する場合があります。

- ◆講演・ステージ(体育室) フィンランド文化紹介
- ◆展示 風景パネル、観光案内、作品の展示

【協力】ミサワホーム株式会社  
【問合せ】杉並区交流協会 ▶HPでも詳しくご案内しています。 [交流協会 HP](http://www.suginami-kouryu.org/)



## Event Information from SACE 交流イベント情報

- ◆交流協会からのお知らせ
  - 外国人とのコミュニケーション講座 ~英語ができなくても大丈夫! まずはやさしい日本語で~  
外国語を使わずに、やさしい日本語で外国人とコミュニケーションするための講座です。  
◇日時: 10月2日(金) 14:30~17:00  
◇会場: 永福和泉地域区民センター(和泉 3-8-18)  
◇参加費: 500円(会員300円)
  - 通訳ボランティア スキルアップ講座 2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催などを視野に通訳ボランティアスキルアップ講座を開催します。  
◇日時: 2016年2月20日(土) 13:00~17:00  
◇会場: 高井戸地域区民センター(高井戸東 3-7-5)  
◇参加費: 2,000円(会員1,000円)  
上記講座の申込・問合せは杉並区交流協会まで
- ◆国内交流自治体からのお知らせ
  - 小千谷市ふるさと市場 新潟県小千谷市の特産品販売  
◇日時: 10月7日(水)、12月24日(木) 10:00~14:00  
◇場所: 区役所中杉通り側入口前
  - 小千谷フェア 新潟県小千谷市の新鮮野菜や魚産物コシヒカリなどの販売  
◇日時: 10月10日(土)、11月29日(日)、12月20日(日) 11:00~13:30  
◇場所: 小千谷学生寮駐車場(井草 4-16-23)
  - 吾妻の朝市 群馬県東吾妻町の新鮮な農産物の販売  
◇日時: 10月22日(木)、11月26日(木)、12月17日(木) 10:00~13:00  
◇場所: 区役所中杉通り側入口前
- 名寄・秋の観光物産展 北海道名寄市の特産品販売  
◇日時: 10月23日(金) 11:00~19:00  
10月24日(土) 10:00~16:00  
◇場所: 区役所中杉通り側入口前
- 南伊豆観光物産展 伊勢海老の味噌汁試食サービスほか、干物や海藻など南伊豆町の特産品販売  
◇日時: 12月14日(月) 10:00~14:30  
◇場所: 区役所中杉通り側入口前 1階コミュかるショップ前  
※いずれも雨天実施。物産販売は売切れ次第終了となります。マイバッグ(買い物袋)をご持参ください。  
問合せ: 区役所文化・交流課交流推進担当 ☎03-3312-2111(代表)

### 交流協会の会員になりませんか? 杉並区交流協会では、国内・国際交流の推進をはかるために、様々なイベントを企画しています。あなたも会員になって、楽しく交流しませんか?

- ◆年会費
  - ・個人会員 1,000円/年 (9月以降入会の場合は初年度に限り500円)
  - ・法人会員 20,000円/年
- ◆会員特典
  - ① イベントの情報や交流に関する情報紙 [交流ニュース (年4回発行)・NEWS LETTER (年8回発行) など] をお届けします。
  - ② 協会が実施するイベントに優先的に参加できる会員枠があります。
  - ③ イベント参加費に会員割引があります。
- ◆申込方法
  - 入会希望の方は杉並区交流協会まで電話・ハガキ・Fax・E-mailにより申込書類をご請求ください。



# 交流都市「北海道名寄&音楽と交流の旅」が大成功

## ジャズピアニスト山下洋輔コンサート 鑑賞付ツアー

このツアーを主催していただいた「東京なよろ会」の中原さんから寄稿いただきました。



歓迎会餅つき実演

新緑の北の大地、「名寄を訪ねて見たい」という杉並区民の声から始まった音楽と交流の旅は、7月10日からの3泊4日34名で催行され、大盛況裡に終わりました。初日の歓迎会では、もち米作付面積日本一をPR、なよろもち大使による餅つき実演会を披露、杉並区民も代わる替わる挑戦し大喝采となりました。翌11日の農業体験



農業体験の後バーベキュー

では、トウモロコシやピーマンなどを収穫しバーベキューを併せて口にするという初体験もしました。

夜は5月にオープンした市民文化センター(エンレイ・ホール)で、世界的ジャズピアニスト・山下洋輔氏のコンサートを観賞、地域のファンも多く満席の中でアンコールにも応えてもらい、拍手は止みませんでした。

3日目は「トロッコ王国美深」に入り全長10kmを自らのハンドルさばきで運転し旧国鉄線路をガタコト、ガタゴトと時速約20kmで走行、踏切り、陸橋、登り、下りにUターン有り、新緑と白樺林に見とれて、徐行、一旦停止の標識を無



山下洋輔氏



めん羊牧場で羊たちと

視の運転も有ったとか……？

午後は「めん羊牧場」を訪問、メイ~メイと泣きながら、毛刈りショーに耐える子羊に少し感傷的なものがありました。また、めん羊牧場での群れを操る

「訓練された誘導犬」は見事でした。

最終日は少々雨に遭いましたが、人気の旭山動物園を見学、午後は富良野の丘陵観光、パッチワークの丘、ジェットコースターの坂を通り抜け、待望の「お花畑」に到着、雨が止みラベンダーは満開、風もなく紫の香りを満喫することができました。長い様で短い新緑の北の大地は天候にも恵まれ、無事帰京致しました。参加の皆さんは、非常になごやかで旅行マナーもとても良く、何よりも節目節目の時間厳守がこのツアーの成功に導いた要因の一つと感じました。



山下洋輔氏と田中区长を囲んで

# 「外国人とのコミュニケーション講座」

## ~英語ができなくても大丈夫!まずは「やさしい日本語」で~

近年の外国人観光客の増加や2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催控え、外国人と接する機会が増えています。交流協会では、日本語で外国人とコミュニケーションをとる方法を学ぶ講座を企画し、講師に日本語教師の深田みのり先生を迎え、6月30日(火)を初回として合計4回実施することになっています。



深田みのり先生

以下は6月30日に阿佐ヶ谷にある区立産業商工会館で22名の参加者を得て行われました。次回(10月2日)については裏面をご参照ください。

まずは、交流協会の事務局長からの挨拶及び杉並区に居住する外国人の現状・特徴などの説明があり、次いで、深田先生による講座が行われました。講座内容は実践に重きを置いた体験型講座で、「外国人は日本や日本人をどのように見ているのか」という話の後、外国人とコミュニケーションをとる時のポイントとして、はっきり話すこと、アイコンタクトや表情、身ぶり、イラストなど視覚的なことも重要な役割を果たす等の説明がありました。

その後は実践が行われました。まずは参加者同志でペアになり、やさしい日本語や態度に気を配りながら相手に言いたいことを伝える練習を行い、次いで、日本語がある程度理解できる外



やさしい日本語を使って自己紹介

国人ボランティア6名の協力を得て、実践練習が行われました。

コミュニケーションのきっかけとしての自己紹介では「名前や出身地に限らず、行きたい所や好きなものなどにも触れることによって話題が広がり、お互い初対面であるにもかかわらず、和やかな雰囲気の中で交流を楽しむことができました。参加者からは「実際に外国人と話ができたことで、今後外国人とコミュニケーションをとる糸口ができた」、「今後も外国人と交流ができる講座や機会を作って欲しい」などの感想・要望がありました。(広報部 Ka)



協力いただいた外国人6名



講座風景

# 通訳ボランティアスキルアップ講座開催

7月18日(土)午後1時から杉並区立産業商工会館で通訳ボランティアのスキルアップ講座を開催しました。講師はネパール政府公式通訳のジガン・タパさんと東京外国語大学大学院総合国際学研究院の内藤稔先生のお二人。この講座は2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催などを視野に昨年開催しているもので受講者は46名でした。同様の講座は来年2月20日(土)。人と人をつなぐボランティア通訳に関心をお持ちの方は杉並区交流協会までお問い合わせください。

タパさんが初めて日本人に出会ったのは6歳の時。自宅に日本人が2週間滞在することになり、タパさんがお世話係になりました。高校を卒業してから日本語を本格的に学び、2000年に留学生として来日。外国人が日本で暮らす時に何に戸惑い、文化の違いから日本人との間にどのような誤解が生じるのか、自らの体験を通じて理解していることがタパさんの強みです。通訳は時に「専門ではない」と言えない人道的場面にも直面します。そのため、想定外の出来事への対応能力を高めようと、日々努力し続けているとタパさんが話すと、受講者は大きくうなずいていました。



ジガン・タパさん



内藤稔先生

内藤稔先生からは、最初に、定住外国人が増え、通訳が必要とされる場面が増えているだけでなく、その内容が多様化・複雑化している現状についての説明がありました。《コミュニティ通訳》は、日常生活の中で外国人と日本社会の橋渡しをする重要な役割を担っているものの、日本では位置づけが不明確であるとの指摘もありました。

後半は、通訳の際のメモの取り方やロールプレイに取り組み、受講者からは「理論と実践の二本立てがよかった」という感想が多く寄せられました。最後に、内藤先生は、日頃から地域に関心をもって情報を集めておくこと、何のための、誰のための通訳かを意識することが大切だと強調。これは機械が代替できない通訳の能力と役割だというお話が印象に残りました。(広報部 T)



楽しくロールプレイ



### 阿佐谷七夕まつりで通訳ボランティア

8月5日~9日まで交流協会から5名の通訳ボランティアが、まつりの案内やバス停までの道順など通訳しました。商店会の人たちと仲良しになれて楽しいですよ。